

元気です

78

ふせしみず
布勢の清水を
美しいまま子孫に伝える

おもいがけない選定

今年、環境省によって新たに「平成の名水百選」が認定されました。認定基準で大事なのが「地域の人が守っている」こと。本市からは、気高町殿の「清水の恵みを守る会」が清掃活動を行う「布勢の清水」が認定されました。

「布勢の清水」といえば、鹿野城主亀井茲矩公「その清冷さ水のごとき」と賞賛し、傍らに涼をとる部屋を設けたと伝えられるほど歴史があり、また知名度もある名水です。

ところが、地元の気高町殿

清水の恵みを守る会



宇田川 稔 さん
Minoru Udagawa

細谷 博子 さん
Hiroko Hosoya

集落のみなさんには、認定は思いがけないものでした。

「布勢の清水を守る活動は、集落に住むものとして当たり前前々をやってきただけですが、でも、選定されたのはうれしいですね」と会長の宇田川稔さんは語ります。書記を務める細谷博子さんも「何かに選ばれるつもりで活動していたのではないので、これから先どうしたらいいのか、というところもいろいろあります」と話します。

水・環境を守る

「清水の恵みを守る会」の

設立のきっかけは「農地・水・環境向上事業」の取り組みでした。集落の役員会で宇田川さんが会長に、細谷さんが書記に選出されました。細谷さんは、この事業に関わるすべての取り組みを写真に収めて報告書を作成しています。会員は集落の人全員。昔から殿集落に受け継がれてきた清水を守る活動をそのまま引き継いでいます。

清水の清掃

清水の清掃は、年4回の集落総出のものと、毎週行うものがああります。

「年に4回は、八幡さん（清水の背後にある布勢神社）の境内を中心に掃除します。各家から必ず一人ずつ出て、半日かけてきれいにするんです」と細谷さん。

毎週行う清掃は、集落の各世帯が4軒ずつ順番に、境内を中心に行うとのこと。

宇田川さんは「みんなで清掃することの大事さは、教えなくてもみなさん自然に受け入れてくれます。こうやって清水の清掃がずっと続いていくのがうれしいですね」と顔をほころばせます。

細谷さんによれば、殿集落



鴨下前環境大臣から認定証を受け取る細谷さん

樗谿の歴史

「おうちだに画報」の発信地、やまびこ館のある樗谿には、国の重要文化財に指定されている樗谿神社があります。もとは初代藩主池田光仲が勧請した東照宮ですが、明治時代に改称されました。光仲が曾祖父にあたる徳川家康を祀る東照宮の勧請を幕府に願い出たのは慶安元年（1648年）、18歳の時でした。造営は着々と進められ、慶安3年4月17日（家康の命日）には重臣らが石燈籠を寄進しています。御神体の開眼供養は同年8月7日から20日まで江戸（東京）上野の寛永寺で行われ、そこから鳥取へと運ばれて、9月12日に到着しました。16日夜に遷宮、翌17日から19日までさまざまな儀式が執り行われました。

千代川右岸の古海河原を御旅所とする御幸行列がはじまったのは承応元年（1652年）9月17日。日光をはじめ全国の東照宮では家康の命日4月17日に祭礼が行われたところが多いのですが、鳥取では9月17日にほぼ定着しました。藩の主導で行われる壮大な行列をひと目見ようと、近在だけでなく周辺の地方からも多くの見物客が集まったようです。樗谿から重臣たちの屋敷前を抜け、鹿野街道を通り鹿野橋を渡って御旅所まで至る祭礼行列と、道沿いに詰めかけた民衆が描かれた絵巻も遺されています。



見物人でにぎわう鹿野橋付近

文化の秋、因州東照宮の所在する神聖な地であった樗谿を、歴史に思いを馳せながら散歩されてみませんか。10月には、文化の花開いた昭和初期の鳥取を紹介する展示「美の人脈」も開催します。ぜひお立ち寄りください。

（やまびこ館 学芸員 森田明子）

問い合わせ先

やまびこ館 上町88 (0857) 23-2140



奥の岩の底からこんこんとわき出す清水

はみなさんがとてもフレンドリーとのこと。「八幡さんと清水を中心にするからじゃないでしょうか」と細谷さんは感じています。

水の良さが住み良さ

殿集落の周辺は、布勢の清水に限らず水が豊富できれいなところだそうです。

「殿の米は日本一の食味です。銀座の米ギャラリーで買った有名な米よりもおいしいです」と宇田川さんが胸を張れば、細谷さんも「福島に住んでいる娘が『殿の米じゃ

ないとだめ』と言うんです」と続けます。

以前は布勢の清水を水源にしていた水道も、平成になるころに新しく掘った井戸をもとにした簡易水道に切り替わりましたが、二人とも「水のおいしさは変わらない」と口をそろえます。

水はみんなのもの

布勢の清水が有名になるにつれて、水の採取に来る人が多くなりました。

宇田川さんたちが心配するのは、水を汲みに来る人のマナー。細谷さんは「先日、集

落のみなさんの考えを再確認したんです。『この水は、私たちが預かって管理しているもの。汲みたい人はどうぞ汲んでください』。先祖から受け継いだ水を、大事にする思いと一緒に、子孫に伝える、それでいいじゃないかと。水を汲みにきていただけるみなさんには、私たちが水を大事にしている思いも一緒に『汲んで』いただきたいですね」とその思いを話します。

清き水が村の人の心をつくる「布勢の清水」。その水をいただければ、清き心になれるかもしれません。